

人と車を交錯させる 現行信号はきわめて危険

——最初に、全国に歩車分離信号を広めよう
とされたきっかけになった「ご子息の事故について
お話を伺えればと思います。」

長谷——私の長男、小学校5年の元喜は、
1992年11月11日、登校途中に交差点の青
信号を渡っていて左折ダンプにひかれ死亡しま
した。長男は臆病なほど慎重な子で、小学校3
年までは自転車にも乗りませんでした。そんな
子が妹と一緒に学校に向かう途中、家から
800mのところにあるT字路の交差点で事故
に遭いました。信号待ちをし、青信号に従って歩
き出したにもかかわらず、後ろから来た左折ダ
ンプに命を奪われたのです。

私たちの住む地域は、関東有数の採石場のあ
るところで、大型ダンプがひっきりなしに通る、近
所の交差点でも過去にいくつも事故が発生して
いました。全国の交通事故の統計を調べると、毎
年同じ種類の事故が同じ確率で繰り返されて
います。つまり、いくら注意していても、同じシス
テムの中では人間は同じ過ちを繰り返してしま
うのです。交差点では歩行者は信号に従うしか
ありません。その安全は、右左折してくる車両
運転手の注意力のみに委ねられています。青信
号を頼りに渡る歩行者は、背後から突然右左
折してくる車両の前になすすべはありません。

長谷 智喜さん

HASE
Tomoki

に伺いました

**歩行者の安全のため、長年にわたって歩車分離信号の普及活動を
続けてこられたお立場から、その必要性についてお話を伺った**

交差点の歩行者に対する危険は、歩行者の注意
力を超えた危険なのです。加害者への怒りは当
然ですが、怒りはそれを飛び越えてこんな危険
な人と車を交錯させる信号システムを変えなけ
ればいけないという運動へと向かわせました。

歩車分離信号で安全性が 飛躍的に高まる

——最初は歩車分離信号という言葉もなかつ
たと思うのですが、どのように運動を進められ
ていったのですか。

長谷——まず「人青車青信号をなくす会」とい
うものを、妻と二人でつくりました。運動を社
会的な問題とするために、被害者とともに行政

を訴える民事裁判を起こし、本を出版し、ホー
ムページを開設し、全国で講演を行うなどの活動
を進めました。

裁判では、歩行者信号が青のときには車はす
べて赤、車が青のときは歩行者は赤。そのよう
にして人と車を交錯させないようにすると言
い方をしていました。そのときに東京都が「人と
車を分離する」という言葉を使い始めたのです。
これだと思いました。それで、そういう信号を
「分離信号」と呼ぶことになりました。歩車」とい
うのはその後、行政の方でつけたものです。

——実際に、歩車分離信号を試行されたわけ
ですが、その効果はどうでしたか。

長谷——2002年に、警察庁が全国100
箇所を交差点を選び、歩車分離信号を設置し

1956年生まれ。長男を亡くした事故から交差点システムの危険性を指摘。信号運用の瑕疵を問い東京都を提訴。1999年「子どもの命を守る分離信号」出版。2001年豊中市教職員組合とともに会を設立「歩車分離信号」の普及活動を展開。2002年警察庁がその有効性を認め全国的な普及が開始される。

はせ・ともきさん
プロフィール

ました。その結果、交通事故死は40%、対人事故は70%、車同士の事故も30%減りました。しかも、歩車分離信号は渋滞を招くとされていましたが、繁華街ではかえって渋滞が減少しました。一時期日本では歩道橋をつくっていましたが、それは高齢者や障害者など歩行者にとつてのバリアフリーになっていません。歩車分離信号なら、今ある道路構造、信号機をすべて共有し、信号のロジックを変えるだけで運用できます。非常に低コストで全国に広げやすい安全対策なのです。

車効率より人の命の方が大事

——歩車分離信号を広めようとされている立場から、土木技術者や行政に望まれることはありますか。

長谷——歩車分離信号は全国で毎年300基ほど増えています。2011年3月現在では5537基になりました。しかし、全国には交差点が20万基あるといわれていますから、まだ2・7%に過ぎません。これを20〜30%には上げていきたい。少なくとも通学路に関しては、す

べての交差点を分離信号にすべきです。歩車分離信号の良さは、歩行者の安全が高まるということです。信号にさえ従っていれば事故が起きないシステムだからです。

一般道は人と車が共有し合う道路です。決して車優先であつてはなりません。特に、事故危険度の高い交差点では、効率よりも安全が優先されなければなりません。ただ、交差点の交通量のMAXを上げる道路設計だけならだれにでもできます。人の安全を確保した道路設計こそが専門家らしいものだと思います。より安全な道路とはどういうものかということ、土木の世界でも研究し、発信していただければと思います。

長男の祥月命日の月でもある毎年11月第3日曜日は「世界交通事故犠牲者の日」です。車効率より人の命の方が大事であるという考え方を、行政をはじめ国民の方々が広く理解し、交通弱者を守る歩行者優先の社会になっていくとすればと思っています。よく子どもが帰ってこないのに何でそんな活動を続けているのかと言われます。もちろん、自分の子どもは帰ってきます。その代わり、今の交差点を一つでも二つでも改善できれば、そこで奪われたかもしれない子どもの命を救うことができます。私はこれからも一生懸命信号改善の旗を振り続けていきますが、できたら今幸せに生きている人たちにこそ、自分たちの幸せを守るために旗を振ってほしいと願っています。

